

第16回 大学図書館問題研究会京都支部総会

議 案 書

第 1 号 議 案

- 1 9 9 2 年 度 活 動 総 括 (案) 及 び
1 9 9 3 年 度 活 動 方 針 (案)

はじめに

大学をめぐる情勢としては、『大学冬の時代』の到来とともに、18才人口の激減期を想定して政府・文部省が大学設置基準の大綱化等を実施し、大学という教育現場に競争原理を持ち込み、自助努力や自己点検・自己評価を迫ってきています。さらに、これらに拍車をかけられる形で、私立大学を中心に生残り競争が激化しています。

このような状況の中で、図書館もそのサービス内容や情報化・機械化の状況を始めとして自己評価を迫られてきています。

この自己評価は受け身的にとらえるのではなく、むしろ私たち大学図書館員にとってライブラリアンとしての力量を向上させる絶好のチャンスとして受けとめるべきでしょう。すなわち、これを機に自ら図書館の活動を総括・評価することによって、そして更には、もっとミクロな視点から自らの業務について総括・評価することによって、“現場から”利用者サービスの向上につながるような方向に“運動として”積極的に展開していくべきでしょう。

また、大学における教育・研究の変化にともない、そしてさらにはこれらを取り巻く環境の変化にともない、図書館員に求められる力量も変化してきており、これらに応えうる力量形成が急務となって来ています。

大図研としては、このような図書館における自己評価・自己点検の活動に対しては、政策骨子として従来から取り組んで来ており、とりわけ京都支部での今年度の活動においても、できうる限りの範囲ではありますが、力量形成のための研究活動の重視とそれらを職場に還元していく活動としての現場実践の重視を柱にすえ、利用者サービスの向上に努めて来ました。

そこで、以下において1992年度の活動総括案と、大図研の活動をより発展させるべく、1993年度の活動方針案を提案して行きたいと思います。

1. 1992年度活動総括 (案)

1) 研究活動の重視

研究活動を重視することは、現場の実践にそれらを還元していくことで利用者サービスの向上に役立ち、さらには、そのことが図書館員の地位の向上につながるものであり、現場と離れて成立するものではないでしょう。

今年度の活動は、このことを大きな柱にすえて展開して来ました。

2) 支部報の発行

毎月1回の発行を課題としながら、会員のコミュニケーションの促進、会員の研究成果の発表の場として一定の役割を果たしてきました。また、より読みやすいものとして、より現場で役立つものとしての紙面づくりを目指してきました。

とりわけ今年度の特徴的だった事柄として、支部総会・研究集会での研究発表を「記録号」としてまとめ上げ、さらには、「支部報第100号記念号」では、歴代の委員長・事務局長に執筆を依頼し、大図研のこれまでの活動を振り返ったことが挙げられます。

また、現場に役立つ記事としては、「Chemical Abstracts 解説講座」を2回にわたって掲載しました。このように、内容的には多様な記事を毎号、掲載することが出来ました。

ただし、発行後に会員の声を聞いたりするなどの往復作業がほとんど出来ず、来年度はこれらの取り組みを重視してよりよい支部報づくりを行っていききたいと思います。

3) 大図研大学第Ⅲ期の開講準備

大図研大学第Ⅲ期では、昨年までのように「様々な主題についてテーマとして取り上げ講義を行っていく」という形式とは異なったものとし、情報化社会において図書館員が利用者に対して迅速かつ的確に情報提供を行うための知識や方法論を学ぶため、図書館員の大きな課題である「情報管理論」にテーマを絞って連続講義を行うことになりました。

この大図研大学の「情報管理論」の各講義の詳細を決めるにあたっては、京都支部全会員にアンケートをとり、意見を集約し、これらを各論の中に盛り込むことが出来ました。

このアンケートでは、記述部分に「大図研に対する意見」を求める項目を設け、各会員の声を聞くことも出来ました。

講師については、同志社大学の犬城先生、三重大大学の柴田先生の両先生に引き受けて頂きましたので、充実した講義となることは間違いないでしょう。

また毎号の支部報で、各会員に対して問題意識と参加意欲を喚起するためのPR活動を

行ってきています。

カリキュラムと日程については下記の通りです。是非、多くの会員が参加し、よりよいものと思いたいと思いますのでよろしくお願いします。

テ ー マ	日 程	講 師
1. 現代社会における大学図書館	10 / 24	大 城
2. 情報管理論	11 / 14	柴 田
3. データベース概論	12 / 12	大 城
4. データベースの利用	1 / 23	柴 田
5. 図書館システム論	2 / 20	大 城
6. ニューメディア論	3 / 13	柴 田

4) 大図研京都支部・図書館職員研究集会（仮称）への取組

現在支部委員会では、昨年度大きく成功させることが出来た研究集会を今年度はより発展させた形で実施すべく、議論を進めています。

テーマを『データベースを越えた情報検索サービスを』と題し、それぞれの学問分野のデータベースを解題し、データベースの収録範囲を越えたところの目録・書誌を解題しようとするものです。これは京大を中心とした共同研究、という斬新なスタイルを進める予定となっています。

そしてさらには、様々な部署の人が参加できるよう、『資料の価格問題の現状と課題—外国資料を中心として—』と題して、予算削減の中で切実な問題であるこの課題をもう一つのテーマとして設定する予定です。

5) 支部総会に向けての取り組み

1992年度の支部総会については、研究集会とは別途に独立して設けることとし、大図研に対する会員の率直な意見・注文・ニーズを各大学の班や職場で十分議論して頂き、それを持ち寄って“今、大図研が何をすべきなのか”を集中的に議論し、1993年度方針をより豊富化させていきたいと思っております。是非、積極的な参加をお願い致します。

6) 班活動

班活動は、支部のもっとも基礎的な活動であります。近年低下しつづけてきているのが現状です。

このことについて、支部委員会で一定議論を致しました。大図研が他の研究団体にはない実践型の研究団体であるが故に、班活動が極めて重要である点では一致できましたが、まだ班活動が時期的に成熟していないのではないだろうかという結論に達しました。

このことは、班活動を軽視するのではなく、会員のニーズを吸収するための新たな方向性を模索しようとするもので、今年度の支部総会もその一つの試みです。

7) 財政活動について

財政については、事務局の不手際で、今年度は2回会費を徴収することになりました。会員の方々にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、来年度においては活動の根幹に関わる財政問題に積極的に取り組み、前納制を追求していきたいと思っております。

2. 1993年度活動方針 (案)

1) 研究活動のさらなる充実

京都大学における月例会や共同研究プロジェクトの取り組みを支部全体に広げ、大学の枠組みを越えたところの活動の在り方を模索したいと思います。

2) 全国大会への京都支部としての目的意識的参加

京都支部の研究大会で発表したものを是非、全国大会の分科会で発表できるものとして発展させていきたいと思っております。

そのことによって、京都支部として全国大会に目的意識的に参加することが可能になるでしょうし、京都支部自体の研究大会もより充実したものとなるでしょう。

3) 大図研大学第三期と研究集会の成功に向けて

今年度は、昨年度計画した大図研大学第Ⅲ期『情報管理論』と研究集会を成功させるべく、多様なPR活動を含めた積極的な取り組みを行いたいと思います。
また、これらの取り組みを是非、次の活動につなげていきたいと思います

4) 支部報の毎月発行

支部報の発行を原則として毎月行ないます。
また、より良い支部報づくりのために会員の声を聞く取り組みを行います。また、これらを参考にしながら、支部委員会で毎月合評会を行ないたいと思います。

5) 会員のニーズの組織化

会員のニーズを組織化するための多様な機会を持ちたいと思います。そして、昨年度の大図研大学のアンケートのように直接会員のニーズを集約するような活動も行いたいと思います。

そして、これらのニーズに基づいた企画や活動を展開していきます。

また、班活動の新たな方向性として、多様なニーズに即した、大学の枠組みを越えた単位での活動（例えば共同研究プロジェクト等）も積極的に展開していきたいと思います。

6) 会員を増やす活動

大図研及び京都支部の活動を説明し、会員を増やす活動を進めます。

このことは、大図研の活動を内容的にも、組織的にも、さらには財政的にも強化するものであり、各会員のところで意志的に進めていきましょう。

7) 会費を全員が、全額を、前納します

大図研の財政は、現状の活動が維持できなほど危機的な状況です。京都支部の会費納入率の動向は全国的にも大きな影響を持っており、会員としての義務である会費納入を全員が積極的に行いましょう。